

季節と暮らし

- 11 -

携帯電話・・・

久しぶりに兄を除いたきょうだいが集まった。弟はこの春で退職、姉はもう退職して7年になるがその後もフルに働いている。

丁度その日、東北で地震が起きた。

地震が、戦争末期の私の、多分3歳か4歳ころの記憶を呼び起こした。父は私を脇に抱え外に避難させると、また家に戻って仏壇を出した。空襲の記憶とともに、その場面が鮮明に残っている。

また、地震で崩れた山里は豊かな幸を人々にもたらしていたに違いないと、戦直後の食糧難の時代をも思い出した。大阪・堺で焼け出され岐阜市近郊に疎開してきた夫は、芋のツルや野草を食べ、飢えから栄養失調で足が腐った。その痕がいまも残る。しかし東濃地方の町に暮らしていた私たち家族は飢えることはなかった。

いまから見れば、「貧しい」暮らしだが、自然の恵みを、人々はフルに活用していた。町の中心部なのに、そこを流れる小川にはウナギがいた。田んぼの「つぶ」(タニシ)、イナゴ、草むらのへび、自然薯などなど、みな食料。家業の製糸業で出たお蚕さまのサナギも、イナゴと同じように甘辛く炊いて食べた。秋には男たちが、大きい子どもも、大きな背負いかごを肩に山へ行く。10畳ほどの板の間に並べられた何種類ものキノコ類。焼いたり煮たり漬けたりして食べた。家の前の広場でざるかごを使って捕まえた小鳥はおとりとなって、鳥屋で小鳥を呼び寄せる。これも男の仕事。盆や正月には、飼っていた鶏なども料理した。そんなこんなで、子どもたちの遊び場は川や野山。川の水を飲み、草を食べながら遊んでいた。

きっと地震で崩れた山には、いまもその豊かさがあつたに違いない。

戦後の長い間、大きな災害はなく、暮らしも豊かに便利になった。ここ数十年は、ガソリンや電気がふんだんに使われるようになって、生活環境が大きく変わった。電子レンジの料理やペットボトルのお茶。ラップやプラスチックの袋・容器。携帯電話やパソコン。55基もの原子炉がそれを支

お知らせ

あなたは対象者？

国保加入の40～74歳の方が対象
特定健康診査・特定保健指導を受けましょう

受診期間:

6月上旬(特定健康審査受診券が届いた日)～ 8月31日

6月上旬より、国保・年金課から、対象者にメタボに着目した特定健康診査受診表(自己負担金800円)や案内が郵送されています。

・「生活機能評価受診券」が届いた方は、特定健診と同時に受けて下さい。(自己負担金なし)

・「肝炎ウイルス検査」「前立腺がん検診」は、検査対象年齢の方が希望されれば、特定健診と同時に受けられます。検診票等の書類は当所にあります。(要自己負担金)

受診方法などについて、詳しくは当診療所窓口までお問い合わせ下さい。



「メタボ健診の不思議」 「腹囲をまず計りましょう」と書いてあるけど、体格に関係なく男性85cm、女性90cmはどこから出た数字？ 「20才時の体重と比較して10kg以上増えていないか」は、なぜ20才？(T)

「わかりにくい！」健診を受けよと言うが、とにかくわかりにくい。「後期高齢者」とかの健康保険制度が、なんで必要なのか。昔に戻してもう一度考えなおしてほしい。(K)

「知ってますか？」昨年にくらべて検査項目は少なくなり、メタボリックだけを大きな声で言っています。後期高齢者検診は、今回から自己負担額500円...(前は、70歳以上は無料)。おかしくないですか？(M)

「湯ぶねがないって...」点滴の作り置きや消毒液の千倍希釈の理由にならないでしょ？医療も国民保険料も正しく！！(H)

「区別？差別？」人のいのちを年令で区別するのは納得がいかない。保険制度を元に戻すこと！(Y)

えている。地球上で戦争が止むこともない。

久しぶりに集まったきょうだいに共通していたことを発見！携帯電話を持っていないこと。「そんなものは必要ないよ」と、ケアマネジャーをしている姉の言葉は小さいが重みがあった。(k)